

にこにこ通信9月号 「読み聞かせの大切さ」

子どもたちに絵本や童話を読んで聞かせる「読み聞かせ」は、子どもの心を育てるだけでなく、子どもと読み手の心をつなげてます。また身近な人が読み聞かせすることは、「こんなに心地よいものを自分のために読んでくれた」という経験になり、子どもの愛着心を育てていきます。愛着心は、人に対する基本的信頼を育み、子どもの心の発達や人間形成に大きく影響するといわれています。

年齢別の読み聞かせのコツ

・0～2歳

絵本の中の言葉を楽しむ時期です。繰り返しのある絵本や、びよん・ガタンゴトン・ぐるぐる・わんわん等の擬態語や擬音語のリズムが楽しい絵本がおすすめです。絵本の言葉を読むだけよりも「何かな?」「～してるね。」「○○ってすごいね。」と語りかけるように読むと楽しんで絵本に触られます。同じ本を何度も読んでと言ってくるのは、読むたびに違う感じ方と喜びを体験しているからです。大人はいろんな本に触れさせたくなるかもしれませんが、それと同じくらい子どもが好きな絵本を繰り返し読んでいくことを楽しみましょう。

・3歳以上

想像力が育ってきてるので、読み手がパフォーマンス的に読むことは避けたいですね。子どもが絵本の世界に入ることを邪魔しないように読むのがおすすめです。それでも子どもは、しっかり感じていますからその力を信じてください。

読み聞かせで大事なことは、身近な人が絵本を読んであげるという行為です。読み方は、二の次でいいですし、上手、下手は関係ありません。読むタイミングはいつでもいいので、大人も一緒に楽しんで読んでみてください。